

オキナワクロホウジャク大陸亜種の記録

古川 雅通

境 良朗

オキナワクロホウジャク (アトボシホウジャク) *Macroglossum corythus* Walker, 1856 は、インド・オーストラリア区に広く分布し、多くの亜種が記載されており、Kitching & Cadiou (2000) では 10 亜種が認められている。日本では南西諸島に分布し、固有亜種 *platyxanthum* Rothschild & Jordan, 1903 とされる。

著者の一人、古川 (2004) は、佐賀県牛津町で 1998 年 9 月に採集したオキナワクロホウジャクを南西諸島の亜種とは異なる可能性があるととして亜種名をつけずに記録した。また 2004 年の秋、境は対馬で採集したホウジャクが同定できず古川に写真で同定を依頼したが、それは上記の佐賀県で採集したオキナワクロホウジャ

クと同じもので、古川は、「オキナワクロホウジャクと思うが、南西諸島亜種ではなく、大陸亜種の可能性が高い」と返事をした。境は有名なスズメガのウェブサイト Sphingidae of the Eastern Palaearctic. の管理者にその個体の写真を送ったところ、やはり大陸に産する亜種 *luteata* Butler, 1875 として掲載された。今までのところ、亜種 *luteata* の日本からの正式な記録はないようなので、ここに記録しておく。

発表を勧められた東京都の岸田泰則氏には厚くお礼を申し上げる。

オキナワクロホウジャク大陸亜種

Macroglossum corythus luteata Butler, 1875

1 ♂, 佐賀県小城市牛津町下砥川 1998 年 9 月 30 日。
古川雅通採集。

古川 (2004) は 1 ♀としているが、♂に訂正する。灯火に飛来したものである。採集当時は小城郡牛津町。1 頭、長崎県対馬市厳原町豆酸崎 20. ix. 2004. 境 良朗採集。(図 1, 2)

ダンギクで吸蜜中であつた。

南西諸島で見られるオキナワクロホウジャクより後翅の橙色の帯が狭く、クロホウジャクまたはホシホウジャクに似る。土着しているのか稀に飛来するものかは不明。西日本一帯では注意が必要であろう。

【参考文献】

- 古川雅通 (2004). 佐賀県牛津町下砥川の蛾類 (1996 ~ 2003 年). 佐賀の昆虫 (40) : 825 - 844.
- Kitching, I.J. & Cadiou, J.-M. (2000) Hawkmoths of the world: an annotated and illustrated revisionary checklist. Cornell University Press, Ithaca, 227 pp.
- Pittaway, A.R. & Kitching, I.J. (2000-2009). Sphingidae of the Eastern Palaearctic. <http://tpittaway.tripod.com/china/china.htm>

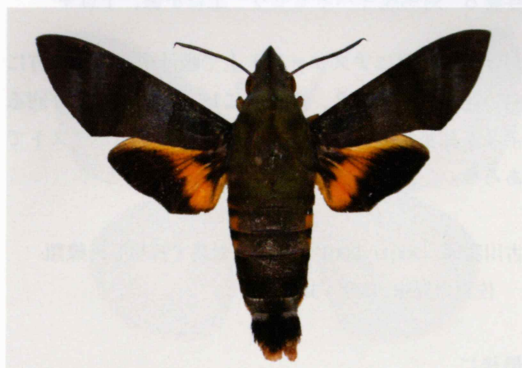


図 1 対馬で採集された亜種 *luteata* (表)

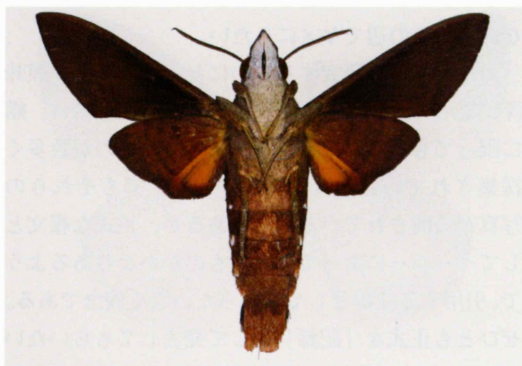


図 2 対馬で採集された亜種 *luteata* (裏)